

2. 横浜市立動物園の現状評価

3園の整備過程をみると過去に横浜市が確固とした動物園戦略を展開してきたとはいえない。しかし現時点での施設の規模と質、職員の能力と意欲、入園者実績等に照らし現状は他都市に比べ全く遜色がないといえる。

経営効率面での当面の課題は、3園のスケールメリットの追求である。但し、動物園はもともと固定費比率が高い施設であり、日常運営レベルでの効率改善の余地は限られる。経営形態の見直しや民間活力の導入の余地も合わせて考える必要がある。

また、せっかくの施設と人材を活用しきれていないことも問題。特に集客・マーケティングに関しては予算、人員、体制が極めて弱体である。現状のままではせっかくの価値を市民に理解されないまま、集客減と過少投資の悪循環に陥る。

特に若手を中心とする職員の能力と改革への意欲は高い。幹部を含めた多くの職員は問題の所在も理解している。最大の障害は3園それぞれ及び本庁の間の柔軟な連携を推進しない現行の硬直的な経営体制である。

横浜市立動物園の各園の特徴と配置



* 万騎が原ちびっこ動物園は、野毛山動物園の分園

歴史と特徴

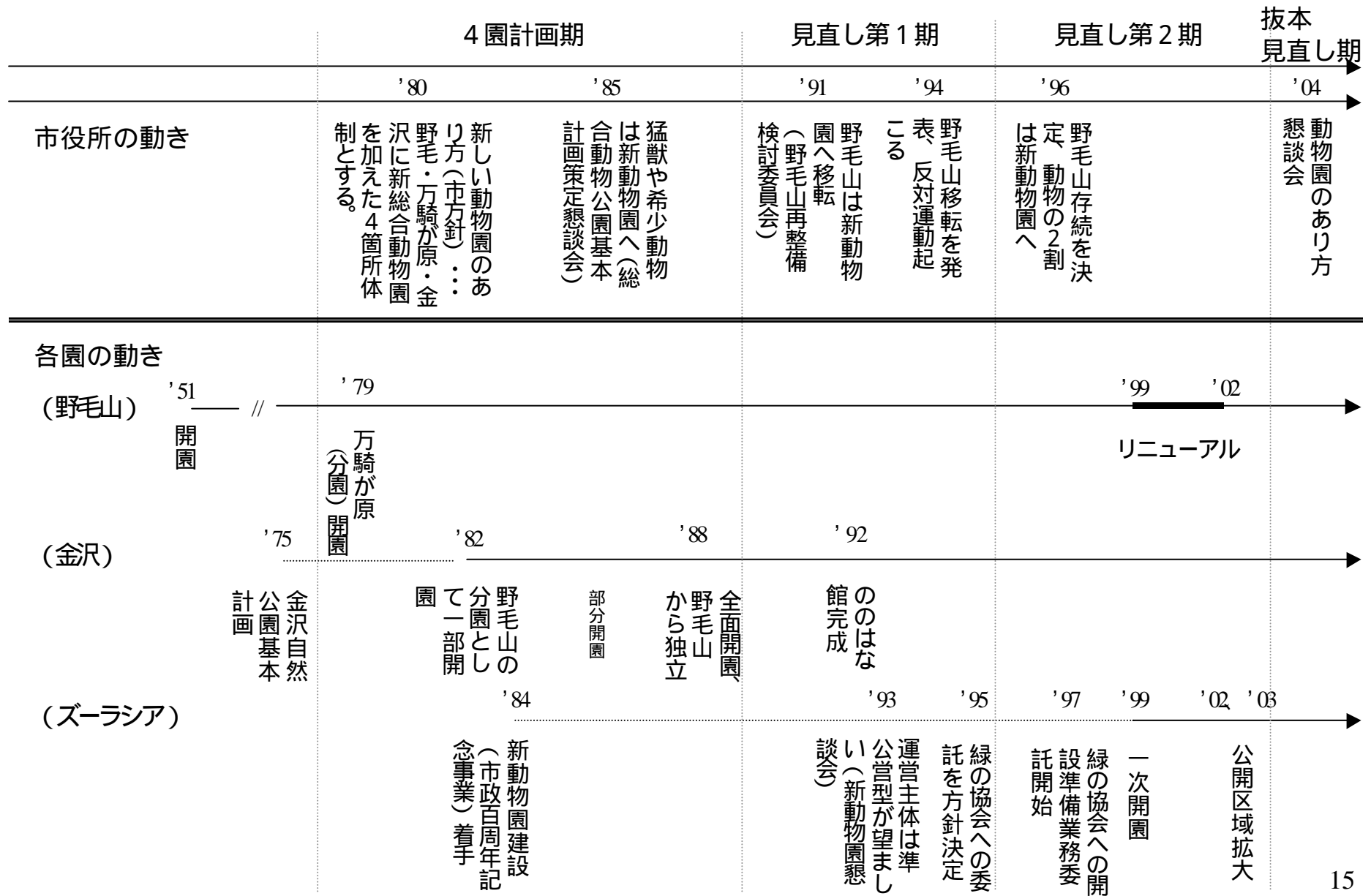
1. 野毛山動物園 (1951年開園)
 - 日本貿易博覧会においてクマやキツネなど動物の展示が喜ばれたことから、野毛山動物園が開園した。キリン、ライオンなど、動物園定番の動物と、小動物のふれあいコーナーがある。国内10番目に古い開園で、親子3代で訪れる入園者もある。
 - 万騎が原ちびっこ動物園は1979年に分園として開園。家畜を主体に、小動物のふれあいコーナーがある。
2. 金沢動物園 (1982年開園)
 - 横浜南部地区の市民の森にも隣接した自然公園の中に建設された。展示ゾーンを大陸別に分けた地理学的展示。希少草食獣を中心に繁殖に取り組む特殊動物園。
3. ズーラシア (1999年開園)
 - 横浜市の北西部のレクリエーションの拠点、また、横浜市の総合動物園の役割を担うため、建設された。動物の展示場だけでなく、園路も含めて生息環境を考慮した展示形態。
 - 園内には、種の保存についてより深く調査研究を進める繁殖センターもある。

< 各動物園の規模 2003年度末現在 >

	野毛山	万騎が原*	金沢	ズーラシア
面積	3.3ha	1.4ha	12.8ha	34.1ha
動物数	110種 1,044点	15種 343点	31種 181点	67種 372点
職員数	36人	6人	49人	88人

市の全体、動物園全体のあり方を見据えた整備と投資が行われてきたとはいえない

3つの動物園を整備するまでの経緯



現状評価の対象

(注)万騎が原ちびっこ動物園は、野毛山動物園の分園。特に断り書きをつけた内容を除き、本報告では野毛山動物園の一部として扱った。

